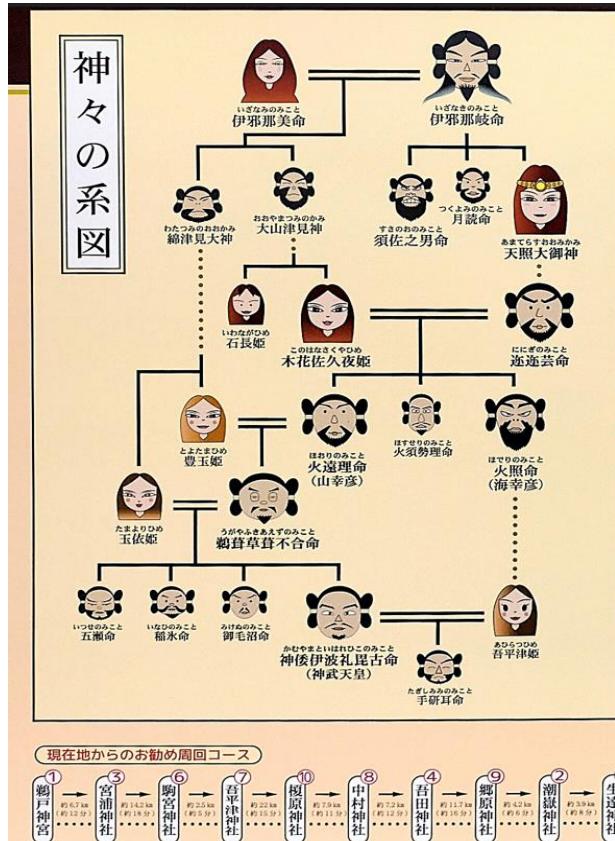


# 青島神社(宮崎市)



# 神話と日南市

『古事記』(712年成立)と『日本書紀』(720年成立)には、日向(宮崎県)・大和(奈良県)・出雲(島根県)地方などの神話が数多く収められています。天孫降臨によって天・地・海の「神々」と人々が出会い、「人々」が生まれます。その1人が後に海を渡って大和で初代天皇となった神武天皇です。

古天原の神話と地上の神話が「神々」と「人々」の世界を結びついているのが日向神話の特徴です。日向神話の中には、日南海岸地域を舞台としたものが多く、日南市には神話にまつわる伝承地が数多く存在しています。



ホームページ  
観光 にちなんの旅 検索  
<https://www.kankou-nichinan.jp/>

設置者： 日南市



前方の島が青島/弥生橋を渡って向かう

 [video](#)



これが弥生橋

 [video](#)



弥生橋を渡ったところ/前方に鳥居が見える



そこで、振り返って弥生橋を見たところ

 [video](#)



鳥居に向かう手前に様々な石碑や説明板があった



「青島神社」と刻まれた石碑



天然記念物のリスト



青島神社は宮崎県宮崎市青島のほぼ中央に鎮座する神社で、周囲1.5kmの青島全島が境内地となっている/海幸・山幸の神話で知られる山幸彦(火遠理命(ほおりのみこと)あるいは彦火々出見命(ひこほほみのみこと))を祭神としている/全島が熱帯・亜熱帯植物の群生地として、国の特別天然記念物に指定されている

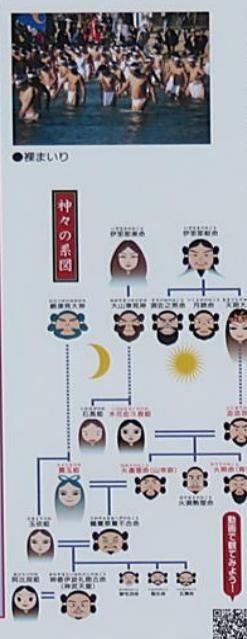


(公社) 宮崎市観光協会

English

繁体  
中文

簡体  
中文



**海幸彦と山幸彦**  
天つ神と国つ神の間に産まれた初めての神である海幸彦と山幸彦。兄は海のものを弟は山のものをと、それぞれに領分を決めて暮らしていったが、山幸彦はたまには交代してみたい。  
どうか道具を貸してほしい」と海幸彦に頼んで一日漁師になってみた。

ところが慣れないせいで、兄が宝としていた釣針を魚に取られてしまふ。兄は怒り、どうしても許してくれない。しまいには自分の剣をつぶして針を作つて持つていつても、あの針でなくてはだめだという。

途方に暮れて海を見つめていたところ、向こうから老人がやってきた。これが埴稚神という人物で訳を話すと「それなら綿津見大神(海の神)の宮へ行きなさい」と教えてくれる。

言われるままに訪ねた宮で山幸彦は、綿津見大神の娘、豊玉姫と結ばれて三年の間、楽しく暮らす。

## 海幸彦・山幸彦の遊び場だった。

広くいえば山の文化と海の文化がここで結ばれることになり、このあたりは「天孫」を媒介にして日本という国が統合されていくさまを表しているかのようだ。

さて、この綿津見大神の宮は青島沖にあつたとされ、青島神社は山幸彦と豊玉姫を祀っている。また、山幸彦が三年後に帰つくる際村人が海に飛び込んで迎えたという故事にちなんで、今でも青島では「裸まいり」というお祭が行われている。

国生み神話から大孫降臨、そして海幸彦・山幸彦・神武天皇まで、古事記のハイライトともいえる物語の舞台となつた宮崎は、まさに神々のふるさと。神話をめぐる小さな旅へ出かけてみよう。

木花佐久夜姫の出産と木花神社

木花佐久夜姫の伝説地が、木花である。

海幸彦、山幸彦らを産んだ木花佐久夜姫だけれど、その出産も大変なものだった。「二夜の契り」を疑う迹跡苦命に対しても、「産む間際になつて産室に火を放ち」この炎の中で無事に産むことをで証しをたてましょう」ということになった

木花の木花神社

木花佐久夜姫の伝説地が、木花である。

わけである。よほど氣丈な女神だったにちがいない。

この時の産室は戸をすべてふさいでし

まつたことから無戸室と呼ばれ、

その跡とされるものが宮崎市

木花の木花神社の近くにある。

また、境内には出産の際に

産湯を使つたとされる桜川と

いう泉が湧いている。この木花

佐久夜姫が壮絶な出産をした宮崎

市木花は、山幸彦が訪ねた海神の宮が

あつたという青島の近くにある。

木花で産まれた海幸彦・山幸彦の兄弟は、

兄海幸彦は青島あたりで魚をとり、弟山幸彦は加江田渓谷から鶴塚山あたりでウサギを追つたりしていたのだろうかと想像してみるのも楽しい。



右手には奇岩の一帯がみられる



これは「鬼の洗濯板」と呼ばれる奇岩で、隆起海床と奇形波蝕痕として国の天然記念物に指定されている/新第三紀(700万年前)海床に堆積した砂岩と泥岩の規則的互層が傾き、海上に露出したものらしい

[\[video\]](#)



波浪の浸蝕を受け、堅さの違いにより凹凸を生じたもの



さて、社殿へと進もう！



前方が神門



# 青島神社

宮崎県宮崎市青島

東經百二十一度二十八分  
北緯三十一度四十八分

## 御祭神

天津日高彦火々出見命  
豊玉姫命  
塩箇大神

## 御祭神譜

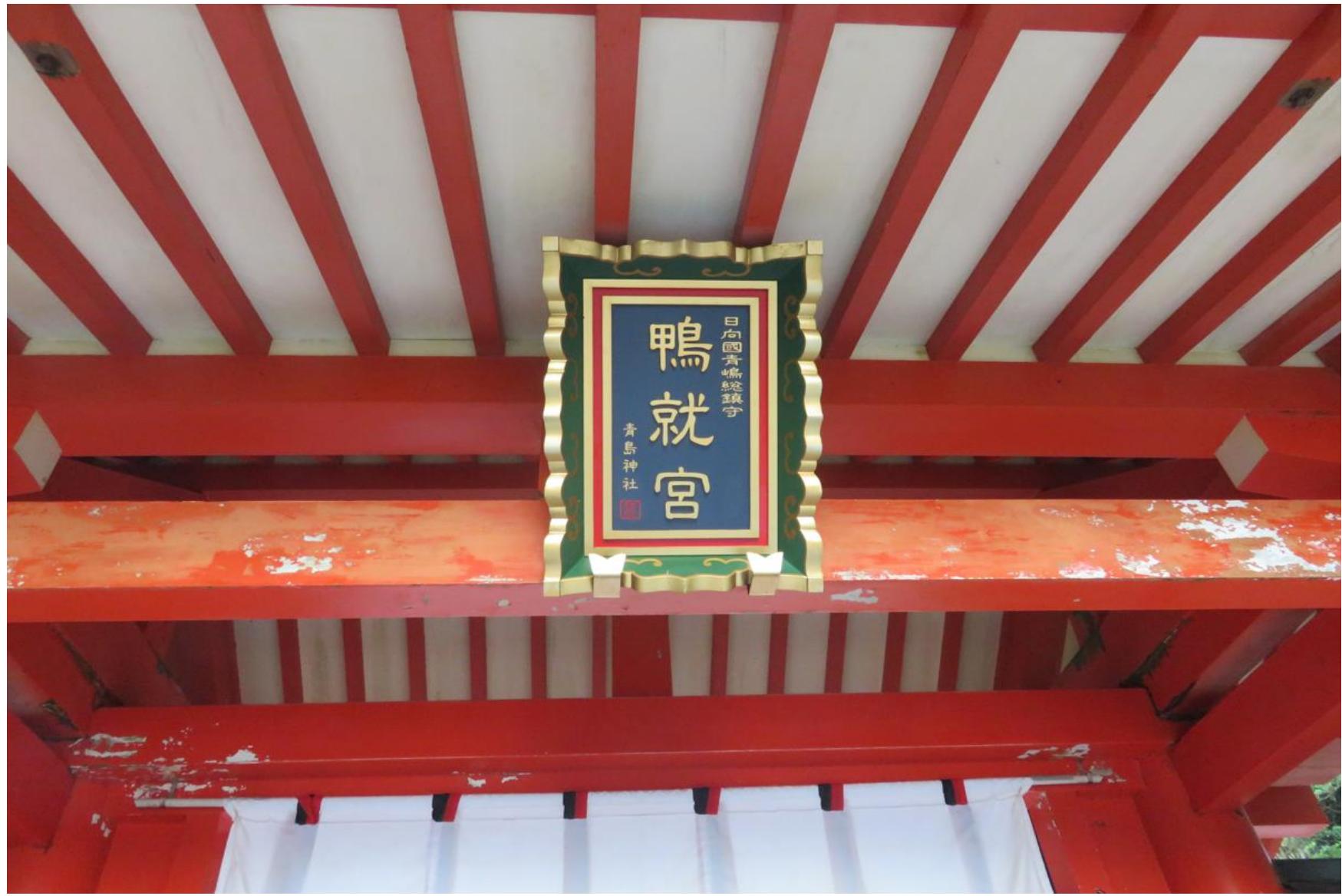
天照大神 - 天忍穗耳命 - 琉々杵命  
(青島神社御祭神)  
鷦鷯草葺不合命 (鶴戸神宮御祭神)  
神武天皇  
(宮崎神宮御祭神)

## 御由緒

彦火々出見命が海宮からお帰りのときの  
御住居の跡として三神をお祀りしたと伝  
えられている。始めてお祀りした年代は  
はつきりしていないが、日向土産という  
国司巡視記に嵯峨天皇の御宇(約千百七  
十九年前)奉崇青島大明神と書いてあっ  
たといわれる文繩(室町時代約四百八  
八年前)以後は藩主伊東家の崇敬が厚く  
御社殿の改築や境内の保護に万全を尽さ  
れ、明治以後は国内絶無の熱帯植物繁茂  
の境内を訪ねる人が多く、縁結び、安産、  
航海、交通安全の神として、益々神威が  
輝くようになった。

神門の向こうに拝殿が見える





拝殿/昭和49年(1974年)に火災で全焼した後、再建されたもの

[\[動画\] video](#)





拝殿両脇の左手前は境内社の石(いそ)神社、右奥は同じく海積(わたづみ)神社



振り返って、神門を見たところ



あ

拝殿の右手に進むと、絵馬で飾られたトンネル「祈りの古道」を通り、その先にはビロウ樹に囲まれた元宮がある



# 祈りの古道

## 絵馬とは：

古くは神馬を奉納していましたが、馬は高価で献納することが困難でした。そこで、馬小屋の形の木に神馬の絵を描き、感謝の言葉を伝える為に、奉納した事が始まりとされています。

今では、祈り願いの言葉を伝える為、また想いや願いが成就した暁に、神様への感謝の気持ちを伝える為に奉納されています。

青島神社では、元宮への参道に絵馬掛けを設け、御参拝者の想いや願い、また御札の言葉を伝えております。



これがビロウ樹林内に整備された参道(御成道)の先に所在する元宮

[\[video\]](#)





弥生時代頃から祭祀が行われていたと伝わる

常若の靈木ビロウ樹にかこまれるように鎮座する元宮は、ちょうど青島の中心に位置する。この地は悠久の昔、古代祭祀に使われたとされる古代祭祀跡地に大元の社殿があつた事から、その御礼の安寧あんねいを祈り、「元宮」が再建された。古くから病氣平癒や婦人病に靈験あらたかどされ、元宮に髪を結び帰るという信仰があつた。大正天皇の御成り以降、多くの御皇族に御参拝戴き、現在でも参詣が絶える事はない。

元宮は、古代信仰の聖地として、その面影を今に残し、訪れる人すべてに安らぎを与えて いる。

常若の靈木ビロウ樹にかこまれるように鎮座する元宮は、ちょうど青島の中心に位置する。この地は悠久の昔、古代祭祀に使われたとされる古代祭祀跡地に大元の社殿があつた事から、その御礼の安寧あんねいを祈り、「元宮」が再建された。古くから病氣平癒や婦人病に靈験あらたかどされ、元宮に髪を結び帰るという信仰があつた。大正天皇の御成り以降、多くの御皇族に御参拝戴き、現在でも参詣が絶える事はない。

元宮は、古代信仰の聖地として、その面影を今に残し、訪れる人すべてに安らぎを与えて いる。

真砂の貝文



## 真砂の貝文

ここ青島は、二千四百年前の隆起海床に貝殻が堆積してできた島である。

依つて青島の別名「真砂島」とも云う。

古代万葉の人々は、和歌の中で「濱の真砂」と詠み、数多い貝殻の中から自分の心情に合った貝を探し、それに想いと願いを込めたのである。

青島では、貝の中でも特にタカラガイが真砂と呼ばれ大切にされてきた。

神社前の浜辺にて真砂を探し、自分の想いと願いを込めてこの波状岩にお供え下さい。

悠久の時を刻み続けるこの元宮の地で

あなたの想いは静かに息づく事でしょう。

綿津見の浜の真砂を数えつつ

まさご

君が千年の在り数にせむ

これは投籠(とうか)所 / 天の平籠投げと言い、素焼きの盃を奥の磐境に投げ入れれば心願成就、割れれば開運厄祓とされるようだ

[video](#)



# ビロード樹

(国指定特別天然記念物 大正十年三月指定)

一、全島を殆ど覆つて繁茂し、その数約五千本である。

二、最高樹齢は、約三百年と推定される。

三、春開花し実は晚秋に熟して落ち翌春発芽する。

四、ビロー樹の成因に次の二説がある。

## (イ)漂着帰化植物説

南より北に流れる黒潮のためにフリップン等南方方面から漂着した種子又は生木が活着して漸次繁茂した

という説

(林学博士 本多靜八・時枝誠之 理学博士 西村眞琴・平山富太郎  
元青島神社宮司 長友千代太郎 各氏の説)

## (ロ)遺存説

第三紀前日本に繁茂した高温に適する植物が気候、風土環境に恵まれて今日に残存したものであるといふ説

(理学博士 三好学・中野浜房 農学博士 日野巖・中島茂 各氏の説)

## 参考

(イ)ビンロー(檳榔) ビロー(蒲葵)は異種である。

(ロ)昔宮廷で使用された牛車の蒲葵庇車に用いるビローの葉を本島より宮中に献上されたと伝えられる。

## その他の中の植物

島内自生植物は、七四科三二八種、熱帯亜熱帯植物二七種に及ぶ。

その主なものは、次の通りである。

◎くわずいも サトイモ科

当地方では境内にだけ産し有毒植物である。

◎はまゆう(はまおもと) ひがんばな科

夏季純白の花を開く本邦中部まで分布。宮崎の県花。

◎ひきり くまつづら科

初夏より初秋まで真紅の美花を開く島内の貴重植物。

◎しゃりんぱい(はまもつこく) いばら科

樹皮から細の染料を作る当地方が自生最北限の植物。

◎ふうとうかずら こしきや科

春開花晩秋さんごのような実が多数垂れ美観を呈する。

◎た ぶ くす科

ビローの繁茂前の植物として今日残つており貴重なもの。

